



NO.

いちろう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

待乳山アーカイブ

住職 平田真純

日本の古代から現在に至る様々な記録を覗いてみると、科学技術や社会の大きな変化はあるものの、人間関係や信仰心など、基本的な人の気持ちは全く変わっていないと感じます。人の心のありさまは、良くも悪くも不変であるといえましょう。その心をよく導く神仏の功德も不変であるといえましょう。

昭和二十年代から三十年代、日本は戦後の焦土からの復興を目指していました。当時の御信徒は、聖天様の御力を頼りに頑張っておられたことでしょう。

新本堂への本尊遷座の夜儀、本堂落慶式などには、待乳山の復興を待ちわびた多くの方々で賑わったことが記録されています。

当時の写真（一頁〜三頁）をご覧いただいで、ご信徒の今も昔も変わらぬ、聖天様を敬う気持ち、聖天様への親しみの気持ちを感じていただければ幸いです。

仮^{かり}本堂で参拝

昭和二十一年（一九四六）九月、終戦後一年余りで、早くも仮本堂が完成した。

写真左側 仮本堂へ参拝の様子



本堂遷座夜儀 せんざやぎ

昭和二十八年（一九五四）十月十六日



戦災後、昭和二十四年（一九四九）に着手された新本堂建設は、

四年後の十月、ご本尊を安置する内々陣ないないじんの塗装まで終了し、本尊遷座の夜儀が行われた。

午後六時、仮本堂での供養の後、御厨子を載せた御輿が篝火に照らされた参道を厳かに進んだ。

写真上||仮本堂を出る御輿。お手綱をしようと多くの御信徒が集まった。

写真左||遷座後、退堂時の風景



本堂落慶記念法要

昭和三十六年（一九六一）十月二十日

着手より十二年を経て、本堂および境内諸堂・諸施設が完成し、落慶法要が執行された。

境内諸堂のお清め法要の後、稚児、浅草寺一山式衆、住職、信徒総代等々の長い行列が町内を練り歩き、本堂に向かい、落慶法要・記念式典が行われた。参拝者は約千人と記録されている。



写真上 本堂に向かう練り行列
写真左 稚児行列



六月行事予定

六月の行事につきましては、新型コロナウイルス対策のため原則中止または縮小の予定ですが、状況により変更する可能性があります。追ってホームページ上で告知をいたします。

地藏尊供養会

六月二十四日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

歡喜地藏様をご供養し、特にお子様の無病息災を祈願いたします。

法要は僧侶のみで執行了いたします。

信徒様におかれましては、ご自宅でのお勤めをお願いいたします。

朝まいり会

六月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

僧侶のみでお勤めいたします。会員の方の参加はできません。

また、七日の齋食は中止といたします。

日曜勤行

中止となります。

写経の会

中止となります。

収束後、より一層充実した行事を企画してまいります所存です。

坐禅の会

中止となります。

合同大般若法要

六月二十五日(木) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

法要は執行了いたしますが、信徒様におかれましてはご自宅でのお勤めをお願いいたします。

七月の行事

出世観音供養会

七月十七日(金)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

常香講

七月二十日(月)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

ご祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壺万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円
沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすること、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円
所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は kyou@matsumehiyama.jp までメールをお送りください。